

### 1 5 3 新宿区 西早稲田

#### 江戸時代の「西早稲田」地区

江戸時代、江戸の町の北西端に位置するこの地は、いくつかの谷に刻まれた台地で、南に続く台地の末端には、明暦の大火後に移された寺社や大名屋敷、下級武士の長屋などが建ち並んでいた。

大名屋敷は別荘的な下屋敷が多く、なかでも、現在の早大文学部の南に広がっていた尾張名古屋藩六十二万石徳川家の下屋敷には、戸山公園という水戸家の後樂園と並ぶ最大級の大名庭園があった。

高田馬場があった北東の台地は、田畑が広がる農村地帯であった。

高田馬場は、江戸初期に、越後高田藩主で徳川家康の六男松平忠輝の生母高田殿が（茶阿と呼ばれていた）、眺望を楽しむため遊覧地を設けたところで、高田の名はここから来たとも、戸塚村の俗称が高田であったからとも言われている。

寛永十三年、三代将軍家光は、ここに馬場を築かせた。馬場とは、馬術の練習や馬術競技、旗本たちの馬揃えを行うところである。高田馬場は、東西六町、南北三十余間の大きさであったという。細長く作られているのは、馬を一直線に走らせて弓矢を射る流鏑馬や笠懸のような競技が多かったためである。

高田馬場の南方に、現在も残る穴八幡宮がある。穴八幡宮とは、社伝によると、康平年間に源義家が創建したという古社で当所は高田八幡と呼ばれていた。寛永十八年、弓組頭の松平左衛門直次が境内に弓の的場を築き、弓矢の守護神として京都の岩清水八幡宮を勧請した。このとき、別当寺の放生寺を建てるため、境内南側の崖を整地したところ、横穴が見つかり、その奥に金銅の阿弥陀仏を発見した。以来穴八幡宮とよばれるようになった。

弓矢の守護神を祀ることから、将軍家の崇敬を受け、三代軍家光以来、歴代の将軍が高田馬場での流鏑馬の神事を奉納した。

西早稲田町の旧町名は戸塚町、高田町、諏訪町など。早稲田の西にあり、早稲田大学があるので町名となった。

東京専門学校になぜ早稲田大学と名がついたかは、東京で最初の洋学校が早稲田村に建てられており、学問とゆかりの深い地名を取ったからだという。

戸塚ははじめ冨塚と書いたが、これは、一丁目の宝泉寺境内に冨塚があり、後に冨を戸にしたとされる。

戸塚第一小学校南側辺りが、江戸時代に旗本たちが馬術の練習などを行った高田馬場



があったところである。現在のその場所の地名は西早稲田三丁目であり、隣町の「高田馬場」に馬場があったわけではない。

### 西早稲田にあった「高田馬場」

JR高田馬場駅の名前の由来となった高田馬場といえば、仇討ちの場所となったことで有名である。忠臣蔵で有名な堀部安兵衛こと中山安兵衛が活躍した仇討ちである。

天禄七年二月十一日、中山安兵衛が叔父菅野六郎左衛門の助太刀をした一件である。のちに安兵衛は、赤穂藩士堀部弥兵衛の養子となる。そして、同十五年に堀部安兵衛として吉良邸に討ち入り、その名前を不朽のものとした。

その仇討ちの場所は、JR山手線高田馬場駅から早稲田大学へ向う途中の西早稲田三丁目であった。

では、どうしてJR高田馬場駅がある地域ではないのか。町名「高田馬場」の一丁目から四丁目が「JR高田駅」の周囲を取り囲んでいる。広い地域である。これには何かわけがありそうである。

高田馬場という町名が出来たのは、何と昭和五十年のことである。町名は、高田馬場駅周辺の戸塚町、諏訪町、下落合の各一部を合わせて、駅名にちなんでつけられた。

駅名の高田馬場は、明治四十三年に駅の開業にあたってつけられたが、このとき地元

の人は本来の上戸塚、または諏訪森という駅名を希望した。しかし、国鉄の前身の鉄道院が、忠孝の精神を重んじてか、義士安兵衛の仇討ちの現場に近いという理由で、高田馬場で押し切ってしまったのである。本来の高田馬場は、駅から一キロほど先の西早稲田三丁目、早大球場があった元グラウンド坂手前の北側にあった。

広重作 第116景「高田の馬場」(下絵)



絵の場所は、現在の早稲田通りと茶屋通りの間、西早稲田一丁目から二丁目にかけて

横に長く伸びた形の馬場である。

時代が下るとともに、弓馬の道を究める場というより、月の名所として宴などが開かれるようになり、馬場に隣接する北側の通りには茶屋が並んだ。それが茶屋通りで今も地名に名を残す。

ところで、現在、甘泉園内にある水稲荷神社には、江戸でもっとも古い富士塚の遺構が残されている。水稲荷神社は古社で、かつては富士塚とともに、早稲田大学の敷地内にあった。

### 第116景「高田の馬場」

この辺りは富士山がよく眺望できたところであり、雪で覆われた富士山が描かれている。

馬場の北側にあった風よげの松の一本を左側にクローズアップし、近景に的を大きく、遠景に富士山を描いて対比の構図が鮮やかである。

片肌脱いだ三人の武士が弓の練習中だ。大きな輪に皮を張ったものでの的を作り、的が壊れないようにするため、矢は先を布で包んだものを使用した。地面に落ちた矢が散らばっている。絵では的に「布目摺り」の技法が施されている。中土手の南側では二人の武士が騎馬ですれ違うところである。現在の早稲田大学近く、新宿区早稲田三丁目の一角にあった。

馬場の向うは下戸塚村の集落と雑木林、冬枯れた田圃が広がっている。

## 甘利園と清水家

本来の「高田の馬場」があった西早稲田三丁目の戸塚第一小学校あたりに、隣接する形で「甘泉園公園」がある。江戸時代には、徳川三郷家の一つ「清水家」の下屋敷が置かれていた場所である。水稲荷神社が残っているが、戦国時代の太田道灌と山吹の少女の逸話が込められた場所もここである。

最初、宝永七年（1710）下戸塚村（現新宿区西早稲田三丁目あたり）の畑地七千坪が尾張徳川家に与えられた。二年半程して大草屋敷（現新宿区富久町西北部から余丁町にかけて）の一部と相對替（交換）で大草内記の屋敷となり、約六十年程した安永三年（1774）九月、御三卿清水家下屋敷になっている。清水家は九代将軍家重の次男家好（八代将軍吉宗の孫）によって成立し、十万石。なお、九代将軍が家重のあと十代将軍は重好の兄家治が継ぐ。

上屋敷は北の丸（現科学技術館あたり、清水門が現存）、下屋敷が浜町（現中央区日本橋蠣殻町二丁目）にもあった。ここ下戸塚の屋敷は清水家高田屋敷と呼ばれ、現在の甘泉

園、水稻荷神社、甘泉園住宅の範囲である。少し遅れるが、北側に面影橋、神田川まで四千七百坪余を抱屋敷として入手、屋敷地の一部に囲込んでいる。この頃になると土地所有権は幕府の力をもってしても勝手に決めることは出来なくなり、御三卿（田安・一橋・清水）の新任家臣たち（幕臣からの横入りもあり）は拝領屋敷をもらうことが出来ず、抱屋敷として農民所有地を購入もしくは借入して年貢や諸役を負担しなければならなかった。現在の鶴巻町、早稲田町、榎町、天神町、若松町、原町などには御三卿家臣の抱屋敷が極めて多い。この頃、天神町で抱屋敷入手のための入札が行なわれたところ、落札したのは参加した武家ではなく農民であった、という記録も残されている。

### 山吹の里に残る太田道灌伝説

都電荒川線が早稲田の終点に着く一つ手前が面影橋、堀部安兵衛の仇討ちで有名な高田馬場もすぐそばにある。「名所図会」は、流鏝馬に励む武士の姿を描きつつ、「山吹の里」と呼ばれたこの地で鷹狩をした太田道灌の逸話を紹介している。(171 豊島区高田の項参照)

急に雨に降られた道灌は、農家に蓑を乞うが、農家の少女は山吹の花を差し出す。「蓑なき」ことを「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」という和歌を踏まえて伝えようとした行為だったのに、道灌が気づかず腹を立てた、という落語の題材にもされた話である。

現在、面影橋のやや南側に「山吹之里」と彫られた小さな石碑が建っていて、古くから人が往来した交通の要地だったことをうかがわせる。ここから橋を渡って南に向くと、高田七面堂と亮朝院の門前が出る。丸みを帯びた体つきは、これまた地蔵を思い起こさせる。

### 水稻荷神社

千年以上前の天慶四年、平将門の乱鎮圧で名を残した藤原秀郷の創建と伝えられる水稻荷神社は、かつて江戸で一番高い富士塚「高田富士」があったことで知られたが、早稲田大学との土地交換で江戸名物だった富士塚は消えた。天慶四年といえば藤原秀郷が平定した平将門の乱の翌年。乱の平定を感謝して神社を建立したのだろうか、当時は勝軍稲荷な



耳欠けの狐

どと呼ばれていたらしい。

なお、境内には奇篤家が寄進した堀部安兵衛の高田馬場仇討ち顕彰碑が明治時代に起立されている。

水稻荷神社は新目白通りに近いが、以前は早稲田通りの近くにあった。今同地には早大9号館の高層ビルが建っている。

この神社が知られるようになったのは江戸時代の半ばごろ。境内のエノキの根元から霊水が湧出し、この水で眼を洗うと眼病に効能があったとされ江戸市中で評判となった。やがてこの神社は「水稻荷」と呼ばれるようになり、水にゆかりということで、消防関係者や水商売の人々に信仰されるようになったという。

甘泉園に隣接する現在の場所に移転したのは昭和三十八年。境内で興味深いのは「耳欠けのキツネ」だ。普通のキツネとは違い躍動感にあふれるポーズをしている。体の具合の悪いところがある人はキツネのそこを触ってから自分の体を触ると、治るという言い伝えがある（上の写真）。

### 堀部安兵衛仇討の場

のちの赤穂義士、安兵衛が伯父菅野六郎左衛門の仇を討った高田の馬場の跡。「堀部武庸加功遺跡」の碑が建っている。

助太刀をした安兵衛の評判を聞きつけた赤穂藩士の堀部金丸が、安兵衛を娘婿に迎えることになる。赤穂藩主浅野長矩の刃傷事件はこの七年後の元禄十四年（1701）。翌年、安兵衛も参加した赤穂浪士による吉良邸討ち入り事件（元禄赤穂事件）が起きる。



### 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館



早稲田大学にあるシックな洋館。昭和三年、小説論「小説神髓」で有名な坪内逍遙が七十歳になったのと、「シェークスピア全集」全40巻の翻訳の完成とを記念して、有志により設立された。

坪内逍遙は、小説のほかには戯曲も書き、演劇の近代化にも貢献した。東京専門学校に日本で最初の文学科を作ったのもこの人だ。

建物は、坪内の発案で、十六世紀のエリザベス朝時代の劇場フォーチュン座を模して建てられた。公演の際には、正面玄関前にある張り出しが舞台、建物前の広場が一般席となり、両翼は浅敷席になる。建物の入り口上部には「Totus Mundus Agit Histrionem」との文字がある。ラテン語で「全世界は劇場なり」という意味だ。シェークスピア時代の劇場、グローブ座に掲げてあった看板の言葉だそうだ。

中に入るとすぐに図書室。テーマを絞った企画展以外に、常設展示もある。一階はシェークスピアの世界。二階は逍遙が来館時に使用した部屋や、民族芸術の資料があり、三階は日本演劇史に関する展示。

おわり

[次項へ](#)